

【鳥取県の全体目標】 がんによる死亡者の減少 75歳未満がん年齢調整死亡率(人口10万対)を70.0未満とする
(令和5年度まで) (男女別の目標値 男性：90.0未満 女性：50.0未満)
【中期目標】 がんと診断された時から患者と家族が抱える様々な苦痛に対する適切な緩和ケアを提供できる体制を整備する
(令和3年度～令和5年度)

前年度の目標	①各施設で、緩和ケアを専門としない医療従事者への基本的緩和ケアに関する教育を行う②緩和ケアを専門としない医療従事者と緩和ケア専門家の連携を強化する③各施設で緩和ケアに対する課題を明確化し、課題解決を図る		
	前年度Plan	前年度Act	
	<p>①医療従事者への基本的緩和ケアに関する教育 (医師向けの緩和ケア研修"PEACE"開催、看護師向けの研修"ELNEC-J"開催、看護師に対するコース研修開催、緩和ケアに関する委員会における研修・勉強会開催、病棟における勉強会開催etc)</p> <p>②医療従事者と緩和ケア専門家の連携強化 (職員に向けて緩和ケアに関するマニュアルの周知、緩和ケアチームへの依頼方法の周知徹底、緩和ケア専門家との連携方法の再考、リンクナースの機能強化と連携強化、地域医療機関との連携強化etc)</p> <p>③各施設の課題の明確化と課題解決</p>	<p>①各種研修会を企画・開催することができたが、受講者は新人や研修医が多い傾向あり。PEACE研修をはじめとして院外および多職種への参加は少ない傾向にある。基本的緩和ケアの教育は継続していく必要があるが、同時にチーム医療の推進として多職種が研修参加できるように配慮していく必要がある。</p> <p>②緩和ケアに関するマニュアルは整備されているが、改訂が滞っている施設も多い。また、依頼方法が定型化している/定型化した施設においても周知が不十分という課題が残った。引き続き緩和ケア専門家との連携整備と広報が必要である。</p> <p>③緩和ケア専門家の人材不足や育成、他施設連携を課題に挙げて取り組んだが、1年で成果は出ていない。継続した活動が必要である。</p>	
今年度の目標	<p>①院内外・多職種を対象にした医療従事者の基本的緩和ケアに関する教育を行う。</p> <p>②緩和ケアを専門としない医療従事者と緩和ケア専門家との連携を強化する。</p> <p>③各施設で緩和ケアに対する課題を明確化し、課題解決を図る。</p>		

鳥取大学医学部附属病院

Plan(計画)	Do(実施)	Check (点検・評価)	Act (処置・改善)
<p>①医療従事者への基本的緩和ケアに関する教育</p> <ul style="list-style-type: none"> 緩和ケア研修の多職種参加推進(PEACE研修含む) 看護師向けの研修"ELNEC-J"開催 地域医療機関向けの研修開催 <p>②医療従事者と緩和ケア専門家の連携強化</p> <ul style="list-style-type: none"> 緩和ケアに関するマニュアル改訂・周知 緩和ケアチームへの依頼方法の周知徹底 緩和ケア専門家との連携方法の再考 リンクナースの機能強化と連携強化 多職種カンファレンス開催 地域医療機関との連携強化 	<p>①基本的緩和ケアに関する教育</p> <ul style="list-style-type: none"> PEACE研修は令和6年2月17日に開催した(参加者20名：Dr16名、Ns3名、薬1名) 当院ではELNEC-Jを開催しておらず、他院で開催される研修を案内している。その他、看護師を対象(院内外問わず)とした緩和ケアコース研修を全5回修了した(参加者：看護師17名)。 中海緩和ケア研究会を年2回開催(6月4日、1月28日)し、6月は岡山大学PCT医師・薬剤師を演者として招いた。 「緩和ケア」をテーマにした市民公開講座を3月9日に開催した(参加者127名)。 <p>②医療従事者と専門家の連携強化</p> <ul style="list-style-type: none"> 緩和ケアポケットマニュアルは改訂途中で、運用の変更を検討中である(現存R5年3月改訂) 緩和ケアマニュアルはR6年2月改訂済みである。 緩和ケアチームの依頼方法は定型化しており、一部修正して6月に院内周知した(チーム医師の処方開始)。 リンクナース会では患者スクリーニングの質向上を目的にSTAS-J評価内容の事例検討を行っている。該当患者を 	<ul style="list-style-type: none"> PEACE研修は予定通り開催できた。今年度は看護師、薬剤師の参加あり。 緩和ケアコース研修は予定通り完遂できた。 地域医療関係者および市民向け緩和ケア研修を予定通り開催できた。特に、市民公開講座(安部医師・松波医師講演)の満足度が高かった。 緩和ケアポケットマニュアルは改訂できなかった。ポケットマニュアルを常備しているスタッフは殆どなく、簡易版のリーフレットが良いという意見あり。 連携再考によりチーム医師の処方開始も実践はほぼなし。依頼者アンケート(年度未実施)では、チーム医師処方の希望32%、臨機応変な対応45%の結果だった。 	<p>各種研修は計画通り実施できているが、医療者向け研修の参加人数は右肩下がりでである。症状緩和には多職種介入が有効であり、多職種が参加できる研修企画を検討していく。</p> <p>市民対象研修としては「緩和ケア」のニーズが高いことがわかった。ACPも踏まえてこれからの生活を考えることのできる研修を考えていきたい。</p> <p>緩和ケアポケットマニュアルの運用も踏まえて、次年度には再考が必要である。</p> <p>下半期は、院内における会議削減の方針からリンクナース会が2ヶ月に1回の開催となった。頻度が減る分、各部署のリンクナースとCN・CNSが連携を密にとる必要がある。また、会の活動計画も見直しが必要である。</p>

【PCTに紹介する取り組みは一昨年度から実施し、今年度は【・STAS-J該患者の紹介率は19%であり、看護師 【・看護師によるチーム紹介を2年推奨したが、成果が伴って】

<p>③各施設の課題の明確化と課題解決</p> <ul style="list-style-type: none"> 緩和ケア科/緩和ケアチームの紹介件数維持・増加 	<p>PCTメンバーが該当患者を抽出して病棟カンファレンスで紹介を打診する取り組みを開始している(リンクナースに。加えて、各病棟担当の専門/認定看護師を配置。概ね週1回病棟とカンファレンス実施)。</p> <ul style="list-style-type: none"> 緩和ケアチームカンファレンスにリハビリ医とセラピストを加えた。カンファレンスは毎週1回定例開催できている。 地域医療機関との連携として、6月4日、1月28日に中海緩和ケア研究会、8月21日に米子緩和ケア研究会を開催した。 <p>③各施設の課題の明確化と課題解決</p> <ul style="list-style-type: none"> R5年度緩和ケア科外来99件(昨年度比128.6%増)、緩和ケアチーム152件(昨年度比110.9%増)といずれも件数が増加している。 	<p>による紹介は5.9%と低値である。</p> <ul style="list-style-type: none"> 多職種カンファレンスは定着している。各職種の専門性を活かしたカンファレンスの活性化を目指す。 地域医療機関との連携は研修会に留まるもののみ予定通り実施することができた。 <p>緩和ケア科外来/緩和ケアチーム共に件数は増加している。該当患者の抽出や紹介打診など引き続き紹介件数が維持・増加するように働きかける。</p>	<p>いない。しかし、多職種で紹介できるシステムはいざという時に有効であり、現状継続とする。一方で紹介数増加のためには他の対策が必要である。</p> <ul style="list-style-type: none"> 多職種カンファレンスは継続とする。4月から会の運営体制を変更したため、次年度中間期で評価していく。 地域医療機関との研修会開催は予定通り実施できたため次年度も継続とする。 <p>過去2年に渡り、取り組みの成果として紹介件数は増加している。しかし、大学病院としては紹介件数が少ない現状にあるため、引き続き次年度も対策を講じて紹介件数の増加を図る必要あり。</p>
--	---	--	--

鳥取県立中央病院

Plan(計画)	Do(実施)	Check (点検・評価)	Act (処置・改善)
<p>①医療従事者への基本的緩和ケアに関する教育</p> <ul style="list-style-type: none"> 緩和ケア研修の多職種参加推進(PEACE研修含む) <p>・看護師向けの研修"ELNEC-J"開催</p> <p>・地域医療機関向けの研修開催</p> <p>②医療従事者と緩和ケア専門家の連携強化</p> <ul style="list-style-type: none"> 緩和ケアに関するマニュアル改訂・周知 緩和ケアチームへの依頼方法の周知徹底 緩和ケア専門家との連携方法の再考 リンクナースの機能強化と連携強化 ・多職種カンファレンス開催 ・地域医療機関との連携強化 <p>③各施設の課題の明確化と課題解決</p>	<p>①</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) PEACE研修 2023.11.18予定 2) 緩和ケア病棟主催緩和ケア研修会 医療用麻薬に 3) 同研修会2023.12月に今年度2回目を予定 ACP 4) 研修医に対する研修 2023.7.14, 24 6名 5) ELNEC-J 2023.10.21-22 6) ウェルフェア北園渡辺病院 エンド・オブ・ライフ 7) 尾崎病院 看取りの看護 2023.10.13(新人看護師) 8) 岩美病院 看取りの看護 2023.10.27(新人看護師) 9) 社会福祉法人こうほうえん法人内施設 高齢者の <p>※1)～3)・5)は地域医療機関からも参加</p> <p>②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・電子カルテポータルサイトに掲載、自由に閲覧可能 ・依頼フォームの活用について緩和ケア委員会などで ・フォーマルな方法：緩和ケアチームへの専用依頼 ・月1回の緩和ケア委員会で徹底。今年度は特に生活の ・緩和ケア病棟では毎日、一般病棟では随時開催 ・当院緩和ケア病棟主催の研修会(年2回)、 <p>③</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リンクナースの機能強化の一環として病棟単位での ・非専門家と専門家の連携については②の通り。 	<p>①</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 予定通り開催 受講者計14名 2) 2023.7.13実施 計47名参加(院外5名) 3) 2023.12.7実施 計67名(院外13名) 4) 2023.7.14/24実施 研修医6名 5)今年度より対象地域を全県に拡大、定員を超え 6)～9)必ずしもがんに特化していないが、地域の医療・福祉施設の要望に応じて研修講師として出向くことで、ACPや緩和ケアの考え方について <p>・2023.1月に一部追加・改定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・周知は図ったが依頼フォームを活用した相談件 ・上記 ・スクリーニング実施率の可視化により、病棟単 緩和ケア病棟では朝夕開催している ・左記のとおり <p>②のリンクナースの機能強化と連携強化の通り</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1) 継続(日時未定) 2) -3) 引き続き年2回程度予定 <p>4) 継続</p> <p>5) 継続</p> <p>6～9) 依頼に応じて対応</p> <ul style="list-style-type: none"> ・引き続き随時追加・改定を行う ・継続しつつ、依頼しやすい方法について検討を続ける ・引き続き継続、評価の上効果が乏しいようであれば ・スクリーニング状況の可視化は継続し、結果に応じた一般病棟での現状の把握とカンファレンスの充実を継続 <p>②のリンクナースの機能強化と連携強化の通り</p>

鳥取県立厚生病院

Plan(計画)	Do(実施)	Check (点検・評価)	Act (処置・改善)
<p>①医療従事者への基本的緩和ケアに関する教育</p> <p>1.緩和ケア研修の多職種参加推進(PEACE研修含む)</p> <p>2.地域医療機関向けの研修開催</p> <p>②医療従事者と緩和ケア専門家の連携強化</p> <p>1.緩和ケアに関するマニュアル改訂・周知 2.緩和ケアチームへの依頼方法の周知徹底 3.リンクナースの機能強化と連携強化 4.多職種カンファレンス開催 5.地域医療機関との連携強化</p> <p>③各施設の課題の明確化と課題解決</p> <p>1.院内緩和ケア内科外来受診率の低下</p>	<p>①医療従事者への基本的緩和ケアに関する教育</p> <p>1.・PEACE：開催日12/2 参加者：12名 当院) 医師1名、研修医2名、看護師4名、 作業療法士1名 薬剤師1名</p> <p>2.1)市民健康講座 テーマ：「がんと共に生きる」 2)緩和ケア認定看護師とがん性疼痛看護認定看護師による院内外へ向けた研修会予定。</p> <p>②医療従事者と緩和ケア専門家の連携強化</p> <p>1.1)緩和ケアマニュアルは令和3年10月改訂。 2.緩和ケアチームへの相談依頼を病棟リンクナースを 3.リンクナースによる小チーム活動の推進。 4.緩和ケア病棟への転院前カンファレンスの実施。 (メンバー：緩和ケアチーム、MSW、リハビリ)</p> <p>5.1)中部地区の3病院で合同症例検討会を実施。 開催日：8/10 参加者：27名参加(院内22名、院外5名)</p> <p>2)緩和ケア委員会で、藤井政雄記念病院の医師・ 緩和ケア病棟師長との意見交換および情報共有。</p> <p>③各施設の課題の明確化と課題解決</p> <p>1.緩和ケア内科併診の周知と、主治医へ緩和ケア内科の併診を声掛け。 2.緩和ケア専門家自身の知識向上を目的とし、研修会に参加する。</p>	<p>①医療従事者への基本的緩和ケアに関する教育</p> <p>1.予定通り実施できた。</p> <p>2.1)予定通り実施できた。</p> <p>2.2)実施できず。</p> <p>②医療従事者と緩和ケア専門家の連携強化</p> <p>1.1)今年度すべて改訂できた。緩和ケアポケット 2.緩和ケアチームがピックアップできない 3.事例検討、勉強会運営、研修会を担当。 4.毎月2～3件実施している。</p> <p>5.1)グループワークによる事例検討。</p> <p>③各施設の課題の明確化と課題解決</p> <p>1.緩和ケア内科外来は、延べ患者数24件/年であり、昨年度より受診件数増加。</p>	<p>①医療従事者への基本的緩和ケアに関する教育</p> <p>1.継続した実施が必要と考え、令和6年度も開催を予定。</p> <p>2.2)地域医療機関へ向けた研修は必要と考え、令和6年度に延期し、6月に実施予定。</p> <p>②医療従事者と緩和ケア専門家の連携強化</p> <p>1.マニュアル改訂は引き続き必要。 2.来年度も病棟リンクナースを中心に行う予定。 3.次年度も継続。 4.来年度も継続。</p> <p>5.1)他院の医療者との交流・検討会はとても有意義であり、来年度も継続。</p> <p>2)来年度は、藤井政雄記念病院の緩和ケア病棟の師長だけでなく看護師も委員会に参加し、情報共有をしていく予定。</p> <p>③各施設の課題の明確化と課題解決</p> <p>1.受診件数の維持および質の向上。</p>

米子医療センター

Plan(計画)	Do(実施)	Check (点検・評価)	Act (処置・改善)
<p>①医療従事者への基本的緩和ケアに関する教育</p> <ul style="list-style-type: none"> 緩和ケア研修の多職種参加推進(PEACE研修含む) 看護師向けの研修"ELNEC-J"開催 地域医療機関向けの研修開催 <p>②医療従事者と緩和ケア専門家の連携強化</p> <ul style="list-style-type: none"> 緩和ケアに関するマニュアル改訂・周知 緩和ケアチームへの依頼方法の周知徹底 緩和ケア専門家との連携方法の再考 リンクナースの機能強化と連携強化 多職種カンファレンス開催 地域医療機関との連携強化 <p>③各施設の課題の明確化と課題解決</p>	<p>①</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎PEACE研修については、2023/12/3に開催した。 ◎地域連携室にて、在宅ケア研修会（人生最終段階における意思決定支援について考える）を6/27と7/27に行った。地域医療機関の看護師19名参加。 <p>②</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎緩和ケアマニュアルは2023/7に改訂。 ◎緩和ケアチームへの紹介の手順や予約枠があるが、口頭での相談、紹介も可能とし、紹介しやすいようにしている。 ◎緩和ケアリンクナースはスタッフ不足、看護師業務量の軽減のため当院では廃止されてしまった。 ◎毎週火曜日にリハビリカンファ、地連カンファ。（医師、病棟看護師。リハビリ、地域連携室スタッフ参加） 	<p>③リンクナースが廃止されており、麻薬使用患者や対応に困っている患者の把握が不十分である。看護師間での話し合いはできるが、主治医からの正式な依頼は少数であり、介入できない症例も散見される。</p> <p>2023/10に病院機能評価の審査を受けた。その準備のため、緩和ケアに関するマニュアルや、鎮静に関する手順、終末期の意思決定にかかわる倫理など様々な書類を改訂することができた。</p>	<p>今後も1年に1回PEACE研修を開催する予定。</p> <p>院内のオピオイド使用者を定期的にチェックし、可能な範囲で主治医や病棟看護師にアプローチすることとなった。</p> <p>緩和ケアマニュアルの改訂を行ったが、修正すべき点が多く発見されたので、順次更新してゆく予定。</p>

鳥取市立病院

Plan(計画)	Do(実施)	Check (点検・評価)	Act (処置・改善)
<p>①医療従事者への基本的緩和ケアに関する教育</p> <ul style="list-style-type: none"> 緩和ケア研修の多職種参加推進(PEACE研修含む) 看護師向けの研修"ELNEC-J"開催 地域医療機関向けの研修開催 <p>②医療従事者と緩和ケア専門家の連携強化</p> <ul style="list-style-type: none"> 緩和ケアに関するマニュアル改訂・周知 緩和ケアチームへの依頼方法の周知徹底 緩和ケア専門家との連携方法の再考 リンクナースの機能強化と連携強化 多職種カンファレンス開催 地域医療機関との連携強化 	<ul style="list-style-type: none"> ・緩和ケア研修会 10/15開催 参加者15名（院外9名、院内6名） 内訳：医師7名、薬剤師2名、看護師6名 ・ACP研修会（知識編）7/6開催 参加者 看護師37名（全て院内） ・ACP研修会（実践編）10/31開催 参加者 看護師7名（全て院内） ・独自の緩和ケアマニュアルあり（2023年2月改訂）。 ・緩和ケアチームへの依頼定型化あり。 ・緩和ケアチーム依頼のあった患者についてチームメンバーと主治医や病棟看護師を含めて週1回カンファレンスを開始。 ・術後使用を除くオピオイド使用者に対し、適正使用と副作用確認を目的に週1回病棟看護師と共にカルテ回診をしている。 ・リンクナースなし。 	<p>研修会への参加は医師や看護師に限られていたの で、MSWやリハビリなどの職種にも参加しても らえると、より臨床に即した検討が多角的な視点 で可能になると考える。多職種へ参加を促す必要 がある。</p> <p>継続した緩和ケア回診やオピオイド回診を通じ て、緩和ケアチームの活動内容を普及に繋がって いる。また定型化した緩和ケアチームへの依頼方 法だけでなく、電話での依頼にもタイムリーに対 応していくことで、スタッフとの連携強化に繋 がっていると考える。医師もオピオイド処方 の際、「院内マニュアルに沿って」とコメントして いることで、院内マニュアルの周知に繋がって いると考える。</p>	<p>研修会の募集時に多職種へ参加を呼び掛ける。</p> <p>連携強化を維持するためにも、現状の活動を継続してい</p>

<p>③各施設の課題の明確化と課題解決</p>	<p>・ACP外来（緩和ケア外来を含む）を設置。</p>	<p>外来で行ったACP内容を診療情報提供書や看護サマリーに記載し、地域医療機関との情報共有を図っている。ただし、利用数は少なく、院内・院外への普及啓発が必要。</p>	<p>ACPの普及段階であり、今後も現状の活動を継続している。</p>
-------------------------	------------------------------	--	-------------------------------------

鳥取生協病院

Plan(計画)	Do(実施)	Check (点検・評価)	Act (処置・改善)
<p>①医療従事者への基本的緩和ケアに関する教育 A15:A15:P31</p> <p>■鳥取生協病院緩和ケア研修会（Web配信併用） 2024年1月「がん患者の心理について（仮）」 講師：臨床心理士</p> <p>■対人援助・スピリチュアルケア研修 日程調整中（2024年1～2月） 講師：村田久行先生（院外）</p> <p>■院内病棟学習会 2023年4～7月 緩和ケア概論・薬剤等について 講師：薬剤師、看護師 以後、テーマを変えて適宜実施する予定。</p> <p>②医療従事者と緩和ケア専門家の連携強化</p> <p>■緩和ケアマニュアル</p> <p>■緩和ケア カンファレンスとチームラウンドの継続</p> <p>■病棟・外来との連携強化 定期的な合同カンファレンスの実施</p> <p>③各施設の課題の明確化と課題解決</p> <p>院内緩和ケアの充実 緩和ケアチームの体制整備 緩和ケア専門スタッフの育成</p>	<p>・2024.1.23 緩和ケア研修会 「ACPに生かせるコミュニケーションスキル」 講師：当院臨床心理士</p> <p>・2023.10.7～11.18（3日間）対人援助・スピリチュアルケア研修 講師：村田久行先生（院外）</p> <p>・緩和ケア病棟 「オピオイドの使用について」看護師12名参加 「緩和ケア概論」看護師10名参加 緩和ケアの基本的知識を中心に、緩和ケア病棟看護師を中心に学習会を</p> <p>・基本的には、日本緩和医療学会のマニュアルを使用している。 ・院内独自のマニュアルはあるが、ほぼ使用していない。（最終改訂は20</p> <p>・週1回、カンファレンスとラウンドを実施している ・依頼方法は定型化されている。 ・連携については、適宜直接緩和ケア担当医にコンサルトしてもらう。 ・リンクナースは置いておらず、緩和ケア病棟以外のナースとのカンファレンスは行っていない。</p> <p>人的資源の不足により、実施できていない。</p> <p>2023年4月に緩和ケア病棟が閉鎖され（10月再開）、この間、院内の緩和医療が停滞し、10月に病棟再開されたが、ベッド数は減少。 また、8月に認定看護師が退職し、院内緩和医療の新体制の構築を始めた。 認定看護師を含めた専門スタッフの育成プログラム作成を検討している。</p>	<p>・院内院外合わせて35名の参加。 多職種の参加があり、公演後の意見交換が活発に行われた。</p> <p>・集中的な研修であり、実践的な内容が多く、有益であったとの評価が多かった。 ・日程的に参加困難な方もおり、調整が必要と考えられた。 ・参加者は院内院外合わせて7名。</p> <p>・専門スタッフからの啓発が有効であったとの意見が多かった。 ・講師スタッフが少なく、開催が数回にとどまった。 ・緩和病棟以外での開催ができず、院内啓発が進まなかった。</p> <p>・職員は学会のマニュアルに準拠して業務を行っており、現時点では問題は生じていないが、当院現状にあったマニュアルも必要。 ・人的資源の不足により、院内独自マニュアルの改訂は現時点では困難。 ・10月以降は毎週、定期的に開催されており、各職種参加している。 ・各職種よりコンサルトがあり、ハードルは低くなった。 ・心療科医師の積極的参加があり、依頼件数も増加傾向。</p> <p>人的資源の不足により、実施できていない。</p>	<p>・多職種の講師による多種のテーマ研修会を行う。 ・院内職員への啓発を積極的に行う。 ・研修会講演はWEBでの再配信も検討。</p> <p>・研修会講演はWEBでの再配信も検討。 ・WEB参加の利点を生かして、より多くの参加者を募る。</p> <p>・各種専門スタッフの協力を仰ぎ、多種のテーマで研修会を増やす。 ・地域内の外部施設の専門家に講師を依頼する。 ・業務改善を図り、他病棟での開催を図る。</p> <p>・当院の現状に合わせた部分的なマニュアルの作成を検討。 ・緩和ケアチームカンファは有効に機能しており、現状維持を進める。</p> <p>・リンクナースの設置を病院管理部に依頼する。 ・現状の人員でより合理的に業務の遂行を目指す。</p> <p>・緩和ケアチーム活動をより活性化させ、チーム全体での介入を進める。 ・興味を持つ職員の発掘を図る。</p>

野島病院

Plan(計画)	Do(実施)	Check (点検・評価)	Act (処置・改善)
①医療従事者への基本的緩和ケアに関する教育をしていく ・緩和ケア研修"PEACE"に参加する	①) 緩和ケア研修の多職種参加を呼びかける 2) 緩和ケアポケットマニュアルを配布し、携帯してもらう	1) 新型コロナウイルス感染症対策のため、研修が少なくほとんど参加できていない	・緩和ケアチームより医療従事者へ研修会への参加を促す ・他病院での研修会も参加できる者には、呼びかけをして参加するよう促す
②医療従事者と緩和ケア専門家の連携強化	(緩和ケアチーム) ②1) 地域連携室との連携を図る 2) 他病院との連携（特に中部）を図る 3) 緩和ケアチームへの依頼方法の周知、徹底	1) 連携はとれていた 2) 新型コロナウイルス感染症対策のため、研修は必要最低限となった 3) 緩和ケアチームから他院への転院はなかった	・これからも地域連携室、他病院との連携を密にとるようにする ・情報の共有を行う
③当施設の課題の明確化 1) 緩和ケア科、緩和ケアチームの体制を整備する 2) 緩和ケアチームでの院内研修を行う	③1) ・ほとんど活動が行われていない ・緩和ケアマニュアルの作成準備をする ③2) ・緩和ケアチームとしての活動が行われていなかった ・院内研修ができていない		・緩和ケアマニュアル（院内）を作成し、緩和ケアチームとしての活動をしていく（院内研修をしていく） ・他病院からの情報を共有し合い、一人でも多くの医療従事者が緩和ケアに興味を持ち、チーム参加が増えるように働きかける

山陰労災病院

Plan(計画)	Do(実施)	Check (点検・評価)	Act (処置・改善)
①医療従事者への基本的緩和ケアに関する教育 ・緩和ケア研修の多職種参加推進(PEACE研修含む) ・看護師向けの研修"ELNEC-J"開催 ・地域医療機関向けの研修開催	① 院内研修会（WEB） 1.「がん患者の疼痛評価と麻薬使用について」 期間：2023年6月5日～2023年6月25日 担当講師：外来がん治療認定薬剤師 2.「がん患者の麻薬使用時の副作用について」 期間：2023年7月3日～2023年7月23日 担当講師：外来がん治療認定薬剤師 化学療法・緩和医療推進委員会主催で、「がん化学療法・緩和医療研修」年間6回院内研修を実施している。今年度において緩和に関する研修については、上記の2回を実施した。	① 1.「がん患者の疼痛評価と麻薬使用について」 参加人数：114名 (医師9 看護師84 看護助手6 保健師1 助産師4 薬剤師2 放射線技師1 臨床工学士1 事務6) 2.「がん患者の麻薬使用時の副作用について」 参加人数：80名 (医師11 看護師48 看護助手1 助産師3 薬剤師7 放射線技師1 臨床工学士1 作業療法士1 管理栄養士1 事務6) 過去に行った内容だったので、昨年度より参加人数は少なかったが、新規採用者・配転者等もいるため復習を兼ねて実施し、研修の狙いは達成できたと考えられる。	① 院内研修については、多職種の参加があった。今後も引き続き実施していく。 地域医療機関向けの研修会は開催していない。 ② 引き続きの緩和ケア回診、カンファレンスを実施していく。 ③ 専門的スタッフが少ない。
②医療従事者と緩和ケア専門家の連携強化 ・緩和ケアに関するマニュアル改訂・周知 ・緩和ケアチームへの依頼方法の周知徹底 ・緩和ケア専門家との連携方法の再考 ・リンクナースの機能強化と連携強化 ・多職種カンファレンス開催 ・地域医療機関との連携強化	② 緩和ケアチームへの依頼方法については定型化されたものがあるが、あまり活用されていない。 オピオイドを使用している患者には、毎週、病棟で緩和ケア回診を行っており、問題点についてカンファレンスを行っている。 緩和ケアに関するリンクナースはいないが、担当看護師がい		
③各施設の課題の明確化と課題解決 ・専門的スタッフの育成			

博愛病院

Plan(計画)	Do(実施)	Check (点検・評価)	Act (処置・改善)
<p>①医療従事者への基本的緩和ケアに関する教育</p> <ul style="list-style-type: none"> ・緩和ケア研修の多職種参加推進(PEACE研修含む) ・看護師向けの研修”ELNEC-J”開催 ・地域医療機関向けの研修開催 <p>②医療従事者と緩和ケア専門家の連携強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・緩和ケアに関するマニュアル改訂・周知 ・緩和ケアチームへの依頼方法の周知徹底 ・緩和ケア専門家との連携方法の再考 ・リンクナースの機能強化と連携強化 ・多職種カンファレンス開催 ・地域医療機関との連携強化 <p>③各施設の課題の明確化と課題解決</p> <ul style="list-style-type: none"> ・専門的スタッフの養成 	<ul style="list-style-type: none"> ・全職員向け緩和ケア研修会実施 (2回、Web) ・ショート動画をWeb配信する研修会を計画 テーマ：がん疼痛緩和の実践編 ・地域医療機関（薬局薬剤師向け）の研修会を開催（3月20日、現地） ・新人看護師の緩和ケア・麻薬研修会にてマニュアルの周知を行った ・PCT介入時に現場スタッフへ口頭でアナウンスを毎回行った。 ・西部緩和ケア研究会への参加を促したが、参加できるスタッフがいなかった ・月1回、緩和ケアチーム会で情報共有と討論を行った。 ・専門的スタッフが少なく、養成のための働きかけを行った。薬剤師1名が新たに資格取得に向けて研修参加などを行っている 	<ul style="list-style-type: none"> ・認定看護師よりWebにより2回実施 ・ショート動画研修会実施できず。 ・門前薬局と病院薬剤部のグループディスカッション形式の研修会を実施（10名参加；薬局5名、病院5名） テーマ：こんなときどうする？がん疼痛 ・新年度新規採用の新人看護師13名に対して行った ・介入件数の増加（前年度比120%、30件）（内訳）病棟スタッフからの依頼（25件）チームの拾い上げ（5件） 病棟スタッフの意識の変化やリンクナースが積極的に依頼してくれるようになった ・業務の都合や部署の感染対策などでスタッフが参加できない会が多数存在した 年度後期はスタッフ参加数が増加した（出席率80%以上） ・看護スタッフの専門スタッフの養成ができてい ・専門的知識を有する薬剤師1名の教育開始 	<ul style="list-style-type: none"> ・次年度も引き続き、実施していく。 次年度回数も増加させる ・次年度実施に向けて対応する ・当院看護師にもアナウンスしたが、都合の関係上、参加者おらず。次年度以降、アナウンス時期なども鑑みながら、企画立案していく。 ・テーマを変えて実施を計画する。 ・引き続き、新人看護師向けの研修会を行う。 ・マニュアルの改訂を行う。 ・依頼されていない患者の拾い上げのため、がん疼痛に焦点を当て、院内全体の把握のためオピオイドカンファレンスを企画 ・専門的スタッフ（看護師、薬剤師、セラピスト）の育成を支援する

鳥取赤十字病院

Plan(計画)	Do(実施)	Check (点検・評価)	Act (処置・改善)
<p>①医療従事者への基本的緩和ケアに関する教育 1) 緩和ケア研修の多職種参加推進(PEACE研修含む) 2) 看護師向けの研修"ELNEC-J"への参加(2名予定) →院内がん看護分野コース研修 9月 12月 3) 地域医療機関向けの研修開催 →がん関連認定看護師公開講座の実施 →地域連携懇話会 ACPについて(仮)研修</p> <p>②医療従事者と緩和ケア専門家の連携強化 1) 緩和ケアに関するマニュアル改訂・周知 2) 緩和ケアチームへの依頼方法の周知徹底 3) 緩和ケア専門家との連携方法の再考 ・リンクナースの機能強化と連携強化 →毎月委員会で担当を決め、事例検討と学習会を計画 ・多職種カンファレンス開催 ・地域医療機関との連携強化</p> <p>③各施設の課題の明確化と課題解決 ACPの啓蒙と推進 地域との連携強化 緩和ケア(がん看護)専門スタッフの育成</p>	<p>①-1) 案内を各部署に配布、参加を促す。参加者の把握。 ①-2) ELNEC-Jへの参加者を確保できなかった。 9月9・10日にがん看護専門分野コース研修を実施。ベーシックコース：参加者7名。 12月9・10日にアドバンスコース実施予定。 修了者には修了証授与 ①-3) 10月20日 緩和ケア認定看護師が講師となり地域の医療機関、介護施設を対象とした公開講座を実施 テーマ：がんと非がん患者の緩和ケア/意思決定支援とACP 参加者：41名</p> <p>②-1) 2023年5月にマニュアル改訂。緩和ケアリンクNsを中心に周知。院内WEBに掲載 ②-2) 相談依頼手順、がん相談支援センターへの相談等、依頼方法について見直し、周知を図った ②-3) リンクNsの役割の明文化・毎月の委員会で担当を決め、事例検討とそれぞれの部署の特徴を活かした学習会を計画通りに実施している ・緩和ケアチームによるオピオイド回診を活用し、ミニカンファレンスを実施している ・退院支援カンファレンスの開催を推進し、連携機関との情報共有し「顔のみえる」連携強化を図っている</p>	<p>①-1) 参加者が確保できなかった ①-2) 院内がん看護コース研修開催 9/9、10にベーシックコース：修了者7名 12/9.10にアドバンスコース：修了者5名 修了者に修了証授与した。 令和6年度も開催予定 ①-3) 左記テーマで実施。</p> <p>②-1) 左記実施。追加項目はその都度改定。院内WEBに掲載。 ②-2) 左記実施。職員、患者からの相談件数がやや増加した ②-3) 左記実施継続</p> <p>③ACP実践フローチャート作成。病院の方針として、「気づき」を活用。院内外で共有できるよう体制を整備し</p>	<p>①-2) 令和6年度も開催計画済</p> <p>②-1) マニュアルの周知と活用を促進するため緩和医療委員会でマニュアルの項目ごとに担当を決め自己学習後、ミニレクチャーを実施予定。 ②-2) 支援が必要ながん患者に対し、もれなく効果的に支援できる体制を検討する ②-3) リンクナースの役割遂行 ③病院の方針に基づいて患者、家族、職員、地域へACPの啓蒙と推進</p>